

広島市長

松 井 一 實 様

広島市文化協会会長

山 本 一 隆



旧広島市民球場跡地利用に関する提言書

球場跡地はハード先行型からソフト
先行型都市開発へ、市民の智恵と創
造力を結集し「ひろしま文化創造発
信ゾーン」づくり

平成24年11月28日

広島市文化協会

旧広島市民球場の跡地利用については、現在、跡地利用検討委員会で鋭意検討が進められている一方で、最近のサッカーブームから球場跡地を含めた市内の利便な場所へサッカー専用球場建設運動が盛り上がっております。これに対し、私どもは各種文化団体の連携組織である広島市文化協会（会員74団体）の立場から、球場跡地利用について提言させていただきます。

旧広島市民球場跡地は、都心部に残された貴重な空間であるばかりでなく、平和公園や都心商業地に隣接し、市民や内外の観光客が集い回遊できる広島市の明日を創造する優れた立地条件にあります。このような場所であるだけに、市民各層の英知を結集したいものであります。

わが国における都市開発は、今までどちらかといえば施設であるハードを先行させる形が取られて来たと考えますが、今日、経済活動が停滞し財政も厳しい時代にあっては、最早ハード先行型の都市開発は時代のニーズに合わず、むしろ広島市の文化を

創造し発信できるイベントなどのソフト開発を先行させ、その実績をもとに必要なハード施設を順次整備する方が無駄もなく、効率的な都市開発ができるものと考えます。

このような視点から、ソフト開発に必要最低限のハード設備を整備してスタートし、その実績を積み重ねることによって、明日の広島を拓く望ましい跡地利用の姿が描けるものと確信しております。

記

1 事業名

- ・「ひろしま文化創造発信ゾーン」づくり

2 対象エリア

- ・旧広島市民球場跡地を中心に周辺の「こども文化科学館」「中央公園」「渝華園」「県立総合体育館」「中央図書館」「映像文化ライブラリー」「ひろしま美術館」「広島城」を含めた広域エリアとする。

3 スタート時に設置が望まれる仮設及び恒久施設

- ・球場跡地のシンボリック展示芸術作品として、岡本太郎の「明日の神話」の誘致運動の際に市民の浄財で制作された実物

大レプリカをエリア内の適地に恒久設置する。

「明日の神話」実物大レプリカ：縦5.5m、横幅30m

- ・音楽、演劇、舞踊、伝統芸能などの文化発信ができる「野外ステージ」と電源、音響、照明、楽器庫、楽屋、上下水道、トイレなどの付帯設備を整備する。
- ・日常的な行事から国際的な大会まで、多目的に使用できるイベント広場を整備する。

4 望まれるイベントなどソフト開発

- ・ソフト開発の基本的な考え方としては、周辺も含めた球場跡地に、子どもから大人までの市民各層や観光客がいつでも安心して集い、学び、楽しめるプラン作りが求められる。
- ・地場産業や食文化などの振興につながるような企画の展開が望まれる。
- ・ソフト開発を対象、規模、頻度などで考えると、次のようなイベントの開催が考えられる。

①市民や観光客が日常的に鑑賞できるもの

- ・音楽、和太鼓、神楽、お笑いなどの舞台練習や発表
- ・文芸、美術など作品展示

②毎週開催されるようなもの

- ・ 季節商品の朝市、屋台村、常設神楽団公演

③毎月開催されるようなもの

- ・ 各種文化団体の定期公演、規模の大きい物産展
- ・ 在広各大学等教育機関のサテライトキャンパス
- ・ 修学旅行生への体験学習の提供

④年一度などの大規模なもの

- ・ 音楽・文化・食・ファッションなどの大イベント
- ・ ロボットコンテスト、世界電気自動車ショー

⑤数年に一度などの国際的イベント

- ・ 国際アートフェスティバル、世界ダンスフェスティバル
- ・ パリ、ミラノのような広島コレクションの実現

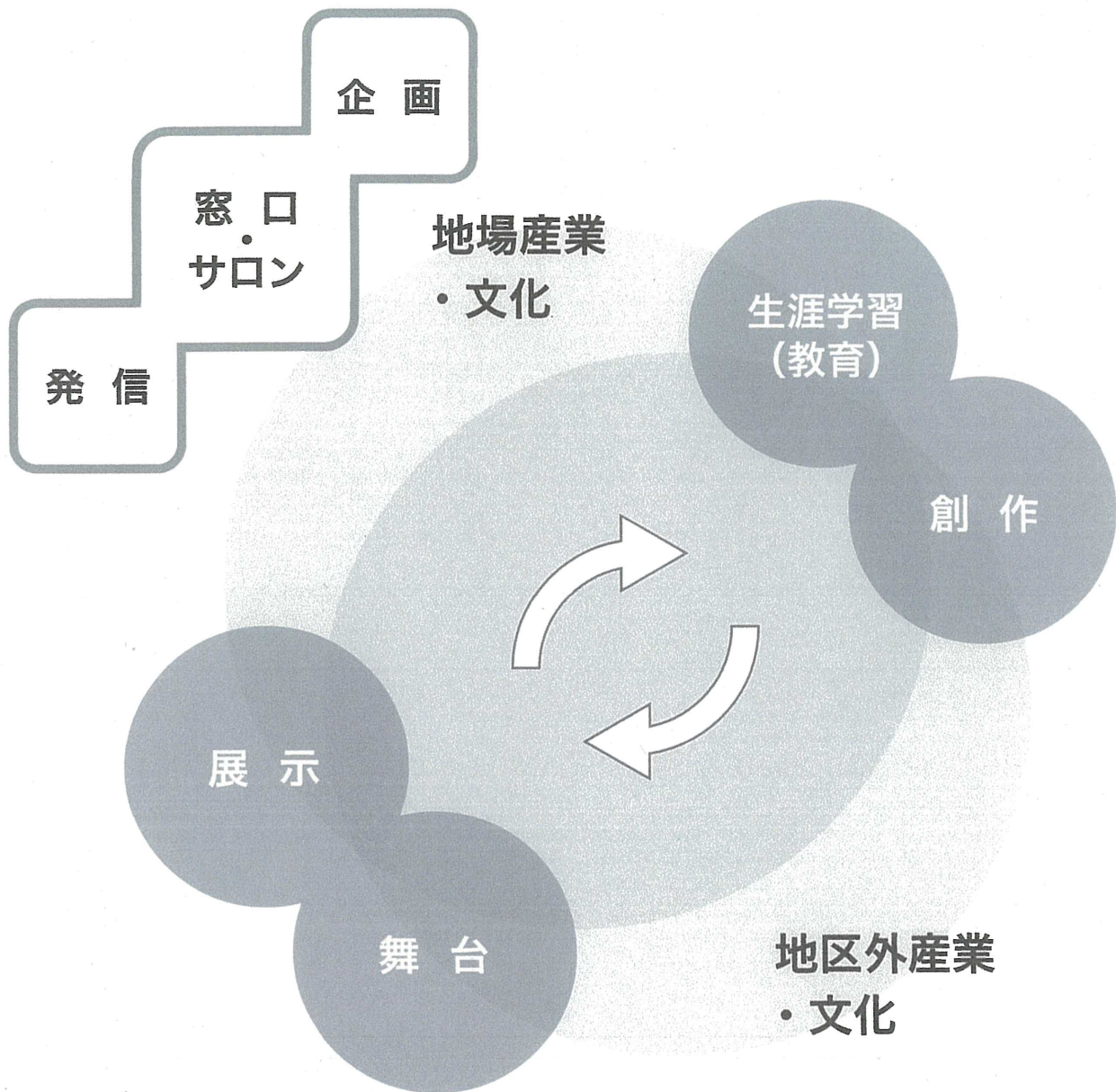
5 協力体制づくり

- ・ 市民参加型の球場跡地整備については、街づくりや文化活動に携わっている各種のボランティア団体、文化団体、中央部の商店街なども待望しているところであり、その推進に当たっては広く協力が得られ、世界に向けて「ひろしま文化」を発信する拠点づくりができるものと期待している。

添付 ゾーン概念図

以上

広島文化創造発信ゾーン概念図



- ・ 学習(教育)機能
- ・ 創作機能
- ・ 展示機能
- ・ 舞台機能
- ・ 企画機能
- ・ 発信機能
- ・ 窓口・サロン機能

社会人

- ・ 雇用の機会拡大
- ・ 職業教育
- ・ キャリア教育

子ども

若者

高齢者